

様式第 9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
岐阜県中津川市	中津川市	平成 26 年 4 月 1 日 ～平成 32 年(令和 2 年) 3 月 31 日	平成 26 年度～平成 31 年度 (令和 1 年度)

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※ 1) (平成 24 年度)	目標 (割合※ 1) (令和 2 年度) A	実績 (割合※ 1) (令和 2 年度) B	実績/目標※ 2	
排出量	事業系 総排出量	7,369 t	6,457t (-12.4%)	6,371t (-13.5%)	108.9%
	1 事業所当たりの排出量	1.55 t/事業所	1.36t/事業所 (-12.3%)	1.66t (7.1%)	-57.7%
	生活系 総排出量	20,547 t	18,372t (-10.6%)	18,167t (-11.6%)	109.4%
	1 人当たりの排出量	228kg/人	215kg/人 (-5.7%)	225kg/人 (-1.3%)	22.8%
合 計 事業系生活系総排出量合計	27,916t	24,829t (-11.1%)	24,713t (-11.5%)	103.6%	
再生利用量	直接資源化量	461 t (1.7%)	639t (2.6%)	302t (1.2%)	-55.6%
	総資源化量	6,548 t (20.7%)	6,109t (21.5%)	4,234t (17.1%)	-450.0%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)	4,985MWh	4,534MWh	5,057MWh -	-
減量化量	減量化量 (中間処理前後の差)	22,527 t (80.7%)	19,939 t (80.3%)	20,278t (82.1%)	-
最終処分量	埋立最終処分量	2,608t (9.3%)	2,308t (9.3%)	2,444t (9.9%)	0%

※ 1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※ 2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 24 年度)	目 標 (令和 2 年度) A	実 績 (令和 2 年度) B	実績/目標※ 3	
総人口	82,387 人	77,968 人	76,905 人	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	43,282 人	45,625 人	44,355 人	
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	52.5%	58.5%	57.7%	86.0%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	8,202 人	8,462 人	7,705 人	
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	10.0%	10.9%	10.0%	0%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	17,408 人	18,611 人	13,988 人	
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	21.1%	23.9%	18.2%	-103.5%

未処理人口	汚水衛生未処理人口	13,495 人 16.4%	5,270 人 6.7%	10,857 人 14.1%	-23.7%
し尿・汚泥の量	し尿量	13,976 k l	6,171 k l	8,922 k l	-
	浄化槽汚泥量	14,801 k l	14,203 k l	11,585 k l	-

※3 (実績の割合-現状の割合) / (目標の割合-現状の割合) を記載

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間(事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	有料化	中津川市	適正な料金徴収方法、処理手数料の検討	H 26-H30	H29 年度にごみ処理手数料の有料化制度の導入を実施した。
	12	環境教育、普及啓発、助成等	中津川市	ごみの排出抑制・資源化等に係る体系的かつ継続的な施策展開	H 26-R1	集団資源奨励金制度を実施し、資源化への意識向上とリサイクルの推進を図った。 集団資源回収量 H26 3,701 t/年 H27 3,774 t/年 H28 3,290 t/年 H29 3,431 t/年 H30 3,061 t/年 R1 2,929 t/年 R2 2,243 t/年
	13	生活排水対策	中津川市	施設整備を見据えた対策等の周知徹底 【関連事業】 ・汚泥再生処理センター整備 ・浄化槽設置整備	H 26-H29	汚泥再生処理センター整備に向け、生活排水対策をチラシにより受益者へ配布、市ホームページへ掲載した。
処理体制の構築、変更に関するもの	21	分別区分、処理方法等の検討	中津川市	施設整備を見据えた分別区分、普及啓発 【関連事業】	H 26-R1	H29 改訂版ごみの出し方ガイドブックの全戸配布し普及啓発を実施した。

るもの				・リサイクルセンター整備		
	22	事業系一般廃棄物対策	中津川市	排出抑制・資源化に係る計画作成の徹底	H 26-R 1	排出事業者に対し排出・処理計画書の作成を徹底し排出抑制を図った。
	23	産業廃棄物対策	中津川市	排出者責任の徹底 下水汚泥混焼の適正管理	H 26-R 1	排出事業者に対し、排出・処理計画の作成を徹底し排出抑制を図った。
	24	生活排水対策	中津川市	水洗化率の向上、施設整備に係る検討 【関連事業】 ・汚泥再生処理センター整備 ・浄化槽設置整備	H 26-H 29	2施設の老朽化が著しく、計画的な処理センターの整備推進する旨をH26年3月策定の中津川市総合計画へ掲載した。
処理施設の整備に関するもの	1	リサイクルセンター整備	中津川市	資源化促進、機能補完、一体的整備 中津川市清掃センター跡地にリサイクルセンターを一体的に整備し、カン類、ビン類、ペットボトル、小型家電等の資源化を推進する。 ※関連施策 21 分別区分、処理方法等の検討 41 再生利用品の需要拡大	H27	H28.3環境センター敷地内に新しいリサイクルセンターを整備し、ごみ処理及び資源化が一体的に処理できるようになり、市民の利便性向上につながった。 ・施設規模 4.9 t /日 ・処理方式 選別・圧縮・破砕等
	2	汚泥再生処理センター整備	中津川市	既存施設の老朽化、汚泥の再生利用促進 全市域から発生するし尿、浄化槽汚泥及び農業集落排水汚泥を適正に処理し、周辺地域の環境保全に寄与するとともに、発生するリンを回収し肥料等として周辺緑農地に還元する。 ※関連施策 13 生活排水対策 24 生活排水対策	H 29-R 1	R1年度汚泥処理センター整備完了 ・供用開始 R 1年12月1日 ・施設名 汚泥処理センター・アクアクリーン中津川 ・処理規模 65 k l /日 ・形式及び処理方式 前脱水型高負荷脱窒素処理方式＋高度処理
	3	合併処理浄化槽整備	中津川市	公共用水域の水質汚濁を防止し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的とし、合併処理浄化槽の設置整備を進める。 ※関連施策 13 生活排水対策 24 生活排水対策	H 26-R 1	合併処理浄化槽補助基数の実績は以下のとおり。 H26 76基 H27 58基 H28 75基 H29 68基 H30 65基 R1 43基 計 385基

	(4)	環境センターごみ焼却施設基幹改良事業	中津川市	既存施設の基幹的改良事業	R2以降	第3期を予定
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	1 リサイクルセンター整備の計画支援	中津川市	リサイクルセンター整備に係る実施設計	H26	H26年度にリサイクルセンター整備に係る実施設計を実施した。
	32	2 汚泥処理センター整備の計画支援	中津川市	汚泥処理センターの整備にあたり、処理施設建設予定地の測量、地質調査等の条件を決定するための基本計画、地質調査、並びに生活環境影響調査の実施	H26	H26年度に実施済
				汚泥処理センター整備に係る基本設計	H27	H27年度に基本設計を実施した。
				汚泥処理センター整備に係る発注仕様書	H28	H28年度に発注仕様書を作成した。
34	(4) 環境センターごみ焼却施設基幹的改良事業の計画支援	中津川市	環境センターごみ焼却施設基幹的改良事業に係る発注仕様書作成等	R1	R1年度に環境センターごみ焼却施設基幹的改良事業に係る発注仕様書を作成した。	
廃棄物処理施設における長寿命化計画策定支援事業に関するもの	33	長寿命化計画策定事業	中津川市	廃棄物処理施設の長寿命化を図るための計画の策定	H29	H29年度に環境センター長寿命化総合計画を策定した。
その他	41	再生利用品の需要拡大	中津川市	処理コストの効率化・適正化 スラグの有効利用先の拡充 【関連事業】 ・リサイクルセンター整備	H 26-R 1	環境センター敷地内に新リサイクルセンターを整備し一元管理により処理コストの効率化を図った。スラグの有効利用拡充を図るため、下水道工事の埋戻し材に試験施行を行った。
	42	小型家電等のリサイクルに関する普及啓発	中津川市	関係団体等との協力による普及啓発	H 26-R 1	R1年度より国の認定事業社と協定を締結し、使用済小型家電のリサイクルの促進を図った。
	43	不法投棄対策	中津川市	連絡体制の強化・充実	H 26-R 1	継続的に地域へ不法投棄防止看板の配布を行うとともに、H29年度より監視カメラの貸出しも開始した。
	44	災害廃棄物処理	中津川市	広域的連携体制の構築	H 26-	H24年度に「中津川市災害廃棄物処理基

					R1	本計画」を策定し、H31年度に改訂を行った。
--	--	--	--	--	----	------------------------

3 目標の達成状況に関する評価

【ごみ処理】

○排出量

事業系家庭系総排出量合計は、目標の 24,829 t に対して実績が 24,713 t であり、目標を達成できた。事業系、家庭系も 1 事業所あたり、1 人あたりの排出量は目標を達成できなかったが、総排出量では達成できた。事業所ごと、家庭ごとの更なる排出抑制の推進を図る必要がある。

○再生利用量

直接資源化量に対する実績は 47% であり、目標を達成することができなかった。
総資源化量に対する実績は 69% であり、目標を達成することができなかった。

令和 2 年度においては、特に新型コロナウイルスの影響を受け、集団資源回収の中止が多く、再生利用量の減少が顕著であった。年々集団資源回収の減少は続いており、資源化率の向上を図る必要がある。

○エネルギー回収量

目標に対する実績が 112% であり、目標を達成することができた。
今後も適正な運転・維持管理を行い、可能な限り安定的な発電、熱回収量に努めるものとする。

○減量化量

目標に対する実績は 102% で、目標を達成することができた。
リサイクルセンターの整備に伴い、ごみ処理及び資源化が一体的に処理できるようになった効果が見受けられる。

○最終処分量

目標に対する実績は 94% で、近似値ではあるが目標を達成できなかった。

【生活排水処理】

○公共下水道

目標に対する実績は 97% で、近似値ではあるが目標を達成できなかった。

○集落排水施設等

目標に対する実績は 91% で、近似値ではあるが目標を達成できなかった。

○合併処理浄化槽等

目標に対する実績は 75% で、目標を達成できなかった。

○未処理人口

目標に対する実績は49%で、目標を達成できなかった。

○し尿・汚泥の量

し尿量に対する実績は69%で、目標を達成できなかった。

浄化槽汚泥量に対する実績は123%で、目標が達成できた。

人口減少が顕著であり、汚水衛生処理人口自体が減少する傾向がみられた。

また、下水道接続や浄化槽の設置工事は高齢者にとって負担が大きく、高齢化世帯の多い当市では水洗化工事に躊躇する傾向がみられ、市では整備事業の推進や補助制度の周知を実施したが目標達成には至らなかった。

下水道整備事業及び合併処理浄化槽等整備事業は現在も継続中であるので、水洗化に対し活用できる補助制度を周知して、汚水衛生処理率を少しでも増加させたい。

なお、目標が達成できなかった項目については、その要因及び目標達成に向けた方策について改善計画書を作成する。

(都道府県知事の所見)

ごみ処理のうち、排出量（事業系は1事業所当たりの排出量、生活系は1人当たりの排出量）、再生利用量及び最終処分量が目標未達となった。

目標未達となった要因としては、主に新型コロナウイルス感染症の影響による家庭での生活時間の増加、集団資源回収の回収量の減少等が考えられるが、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば、生活系ごみについては、平成29年度からの家庭ごみの有料化により排出量が減少し、その導入効果が見られる。

コロナ禍においても、まん延防止対策を講じた上で、3Rの推進、環境教育、ごみの発生抑制等に係る普及啓発を実施されたい。また、更なる排出量の減少に向けて、家庭ごみの有料化制度の検証やその他の施策の検討をされたい。

生活排水については、公共下水道の処理人口及び普及率、農業集落排水施設等の処理人口及び普及率、合併処理浄化槽等の処理人口及び普及率、未処理人口並びにし尿・汚泥の量が目標未達となった。生活排水対策や浄化槽管理の重要性について市民に周知する際に、補助金制度の活用についても併せて周知することで、より効果的に合併処理浄化槽への転換を促進し、汚水処理人口普及率の向上を図られたい。